

教員参加型「野外観察データ共有システム」の現状

Introduction of a new field observation data sharing system for schoolteachers

伊藤 孝 [1]; 関 友作 [2]; 西開地 一志 [3]; 豊田 守 [3]

Takashi Ito [1]; Yusaku Seki [2]; Kazushi Nishikaichi [3]; Mamoru Toyoda [3]

[1] 茨城大学・教育; [2] 茨城大・教育; [3] ジーエスアイ (株)

[1] College of Education, Ibaraki University; [2] Education, Ibaraki Univ.; [3] GSI Co., Ltd.

<http://eye.edu.ibaraki.ac.jp/portaldb/>

1. はじめに

演者らは近年、ホームページとモバイル端末を活用した教員参加型「野外観察支援システム」を立ち上げ（伊藤ほか、2006）、現在、より発展させた教員参加型「野外観察データ共有システム」を運用している。本システムの基本的な発想は、小中学校教員自らが、野外観察に適した地点の情報（位置情報、解説など）を登録し、その情報を広く共有するというものである。ここでは、本システムの概要と期待される効果について論ずる。

2. 「野外観察データ共有システム」の概要

本システムは、(1) 専用ホームページより、学区内に分布する自然・歴史・文化に関する観察項目の位置情報、観察地点に関する解説、参考文献などに関する情報を得ることができる、(2) GPS・PDA 端末により容易に観察地点にたどり着き（図 1, 2）、さらに文字ガイダンスによって、ごく短時間で学区内の自然・歴史・文化の概要を「現場」で知ることができる、(3) 地域の教員みずからが学区内の観察項目に関する解説を登録・追加・改訂できる、という特徴を有する。

専用のホームページでは登録済観察地点を、自然・歴史・文化それぞれのテーマから検索、地図から検索、小学校の学区から検索することが可能である。また、観察項目の位置情報、解説、参考文献などを閲覧することができる。これらの情報により、土地勘がない場所においても観察項目の取舍選択、場所の確認、観察ルートの設定が可能となっている。

GPS・PDA 端末では、地図上で現在地と観察地点を確認できるので、容易に観察地点にたどりつくことができ、あらかじめダウンロードしていた観察地点の解説文を閲覧可能である。

3. 「野外観察データ共有システム」の意義

これまで教員各自が蓄積した、地域の自然・歴史・文化等に関する様々な知識は、個人のものとして留まり、転勤とともに死蔵されてきた。このシステムはそれら、これまで引き継がれてこなかった多くの知識と多様な経験を、広くかつ長期に渡って利用・共有できる体制づくりを可能にするものである。

この教員参加型「野外観察データ共有システム」の普及・拡大により、どこの学校の学区にも地元の自然・歴史・文化についての解説を備えることができる。これにより、野外観察学習おける事前の準備が軽減され、野外観察会実施の垣根を低くすることが期待できる。

引用文献

伊藤ほか (2006) モバイル端末とホームページを活用した「教員参加型野外観察支援システム」の提案『地学教育』59(4) pp.131-136

「野外観察データ共有システム」の URL

<http://eye.edu.ibaraki.ac.jp/portaldb/>